

史学専攻（博士前期課程）

1. 教育研究上の目的

史学専攻は、多様な分野の授業を通して歴史学における視野を広め、史料読解技術を高め、自身の問題関心に根ざした高水準の実証研究としての修士論文を作成させることにより、高度な専門性を有する職業人を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

史学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（史学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 専攻する歴史分野における先行研究に関する十分な専門的知識を有し、当該分野に関する史資料を独自に探索・蒐集し、読解できる。
2. 先行研究への知見と史資料の読解力を通じて独自に明確な課題を設定し、そこから適切な論理過程を経て、説得力を持ち、独創性を有する過去の歴史像を創造できる。

（思考・判断・表現）

3. 対象とする歴史的社会的性格を歴史的に判断できる。
4. 先行研究の成果に関する知識と一次史料の解釈に基づき設定した研究課題を論理的に判断し、適切かつ論理的な文章で表現することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 自身で設定した目標に対して、史料と先行研究を駆使して、追及していくように取り組むことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

史学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 1年次において、各自の希望する研究分野における史料の探索利用、研究の視点や方法について修得するため、「日本史演習」「東洋史演習」「西洋史演習」を配置する。（知識・技能／関心・意欲・態度）
2. 歴史研究に必要な史料整理・読解法及び歴史学の方法・史学史を修得するため、「古文

書学文献学研究」「史学理論史学史研究」を配置する。(知識・技能／思考・判断)

3. 様々な歴史学のテーマにふれ、各テーマの方法論や知識を得るために、「日本史特殊研究」「東洋史特殊研究」「西洋史特殊研究」を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)
4. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「修士論文指導」を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)
5. 学生が学外で広範囲の知識や経験を得ることを希望する場合、他大学院研究科との相互交流協定を通じて相互の履修及び単位の修得ができ、学外の研究機関の設置する課程・研究会等の履修により設定された単位の履修を認める。(知識・技能／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、修士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

史学専攻 (博士前期課程) では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 専攻しようとする歴史分野に関する基本的な専門知識を有し、卒業論文等の執筆の経験があって歴史学の研究手法の基礎を習得している。
2. 希望する歴史分野での研究で用いる史料読解に必要な古典語、外国語の語学力を身につけている。

(思考・判断・表現)

3. 人類の過去の歴史的社会のあり方や様々な歴史現象に幅広い関心を有し、それについて自らの経験と知識に基づいて、論理的かつ説得力を持つ文章で説明することができる。

(関心・意欲・態度)

4. 研究課題を独自に設定し、自立的に研究を進めるために、研究対象とする歴史的社会に関する先行研究を積極的に学び、独自の視点を打ち立てる意図と能力を有している。

以 上